

—令和6年度委嘱書交付式—定期総会—新任者研修会—

とき／令和6年4月27日（土） ところ／広島市役所2階講堂



村上市民局長



定期総会



玉田会長



委嘱書交付式



今年度新たに358名のスポーツ推進委員が任命されました。



田中事務局長



新任者研修会



広島市スポーツ推進委員協議会事務局



感謝状贈呈



会場・受付準備



編集後記

今号から新メンバーによる広報紙づくりが始まりました。長年にわたり貢献されたベテランメンバーの半数が引退され、広報紙制作も初めてという方もおられる編集作業は大変でした。しかし、新たな視点での意見も出るなど、これまでにない雰囲気でも紙面構成ができる貴重な機会となりました。

今号の目玉記事は、リーダー研修会です。なかなか学ぶ機会の少ない障がい者スポーツの一つで、パラリンピック競技でもある「ゴールボール」を紹介しています。また、リーダー研修会の導入部分で行われた視覚障がい者の日常体験もコラム的に掲載しましたので興味を持って読んでいただけると幸いです。 広報部一同

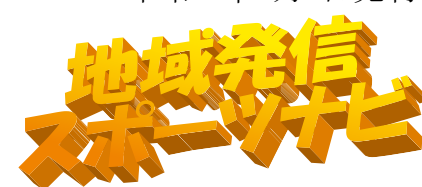


『五つの色は五大洲の人々が「平和」をめざすという意』

ひろしま スポーツ推進委員

第87号

令和6年9月1日発行



発行責任者 広島市スポーツ推進委員協議会
会長 玉田 裕司
発行所 広島市中区国泰寺町一丁目4-15
(公財)広島市スポーツ協会事務局気付

新役員紹介

会長挨拶 玉田 裕司

この度、本協議会の会長に引き続き就任いたしました。

これからのスポーツ推進委員の役割の中に「健康長寿」への対応が求められています。いろいろなニュースポーツを研修していくことで自分のスキルアップを図っていただき、少しでも地域住民に体験してもらい、週一の運動につなげていきたいものです。それぞれ、スポーツ推進委員の「自覚」と「責任」を持って、生涯スポーツと地域スポーツの発展に努めていきたいと思います。役員一同精一杯がんばりますので、皆さまのご協力、お力添えもよろしくお願いいたします。



後列左から

副理事長 廣田 武 副理事長 坂本真知子 副理事長 中本 章夫 副理事長 古田 政之

前列左から

副会長 埴田 栄樹 会長 玉田 裕司 理事長 平田 克士 副会長 中村 靖

専門部 部長挨拶

総務部長 上原 寿文



スポーツ推進委員は6期目を迎えました。佐伯区では副会長を担当しています。これ迄ずっと研修部で、このたび総務部長を拝命し、かなり困惑しています。広島市スポーツ推進委員協議会で今後2年間開催される行事等が円滑に行われるよう努めたいと思いますので宜しくお願い致します。

研修部長 八尾 英樹



新型コロナウイルスがら類に移行となり、各地域においての行事も復活し、スポーツ推進委員の役割が重要であると再認識しました。そのため、研修内容について、副部長と8区の代表の方と力をあわせて今までの内容を継承しつつ、新しい内容を取り込みたいと考えております。

広報部長 常本 康之



この度、広報部長を拝命しました常本です。任期の間にスポーツ推進委員以外の方々に対する広報活動にも注力して認知度を上げていきたいと思っています。なお、広報紙やHPなど、宣材制作に際しましては、掲載写真やコメントの提供などで、広報活動へのご協力をお願い致します。

CONTENTS

2・3面 リーダー研修会・区別伝達講習会

4面 委嘱書交付式・定期総会・新任者研修会

広島市スポーツ推進委員
公式ホームページ

広島市スポーツ推進委員 検索



「ゴールボール」 Quiet Please!

目かくしをして鈴の入ったボールを転がし、ゴールに入れることで得点を競うゴールボールは、障がい者スポーツのひとつです。この競技は、1976年のカナダ大会でパラリンピックの正式種目として採用されました。日本でも1992年に競技が紹介され、普及活動が進められました。1994年には日本ゴールボール協会が設立され、国内でも大会が開かれるようになり、パラリンピックで日本代表チームがメダルを獲得しています。今年のパリ2024パラリンピックでは男女とも出場し、メダル獲得が期待されています。



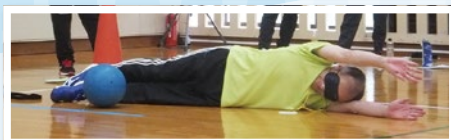
講師 社会福祉法人 広島市社会福祉事業団
広島市心身障害者福祉センター



正式ボール ▶



◀ 簡易ボール



視覚障がい者の疑似体験

視覚障害の感覚を体験するため、アイマスクをしてガイドの肩を借りて歩いたり、走ったり、階段を昇り降りしたりと、視覚障がい者が真っ暗な世界で、どのような心理状態になるのかを体感することができました。また、ガイドをする側も何をどのように伝えたら安全に移動できるかも体験しました。



ガイドの肩を借りて歩く



ひもを持って走る



階段を昇る



階段を下りる

6月に行われたリーダー研修会で視覚障がい者の疑似体験をしたうえでパラスポーツの「ゴールボール」を体験し、各区でこの研修内容を伝達しました。

ボールの転がる音や選手同士の掛け声、相手の動く物音、床の振動やラインの感触、視覚以外のすべての感覚を研ぎ澄ませて戦うパラリンピック競技です。

競技の概要

- 1 チーム最大6名で競技者は3名
- バスケットボールとほぼ同じ大きさの鈴の入ったボールを使用
- 全員専用のアイシェードを着用
- ゴールは高さ1.3m×幅9mでサッカーゴールのようにネットを張る
- 試合時間は12分ハーフの合計24分



観客は競技の妨げにならないよう、プレー中に声を出して応援することができません。

お静かに!



▲ ボールに触れてから10秒以内に投げ返さなくてはならない10セカンズというルールがあるので、ボールは「はじく」のではなく「止める」ことを意識します。

◀ 投げ方は上からでも下からでもきまりはありませんが、攻撃エリア、ニュートラルエリアでバウンドしなければ反則になるので、このような投げ方がよいです。